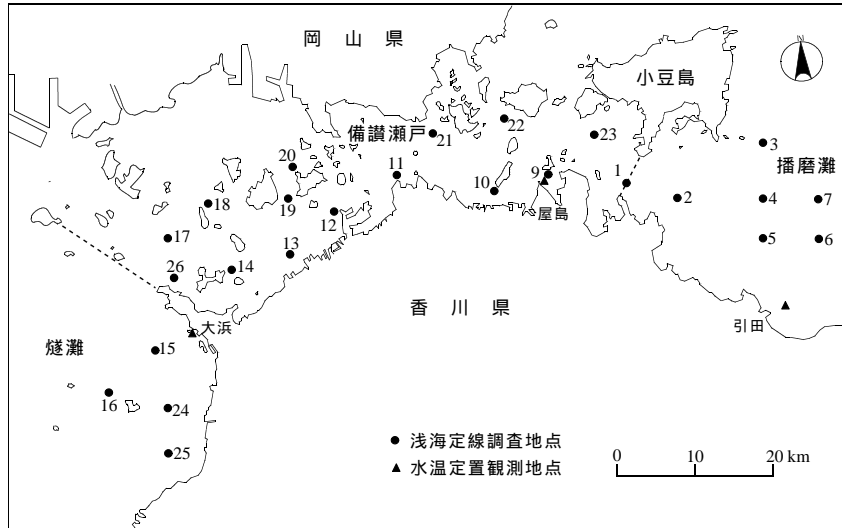


香川県漁海況速報 平成18年 12月 (H18-9号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年12月5日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めからかなり高め」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	17.6	17.6	17.8	31.9	31.9	32.0	5.2	5.24	5.23
	平年値	16.8	16.8	16.8	32.1	32.1	32.2	7.3	5.35	5.25
	平年偏差	0.9	0.9	1.0	-0.2	-0.2	-0.2	-2.1	-0.11	-0.02
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	17.0	17.0	17.0	31.3	31.3	31.3	5.7	5.14	5.12
	平年値	15.9	15.9	15.9	32.1	32.1	32.1	5.1	5.35	5.32
	平年偏差	1.1	1.1	1.2	-0.8	-0.8	-0.8	0.6	-0.21	-0.20
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	17.4	17.6	17.6	31.5	31.6	31.6	4.5	5.23	5.15
	平年値	16.3	16.3	16.3	32.4	32.4	32.4	7.5	5.39	5.28
	平年偏差	1.1	1.3	1.3	-0.9	-0.8	-0.8	-3.0	-0.16	-0.13
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや低め	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み

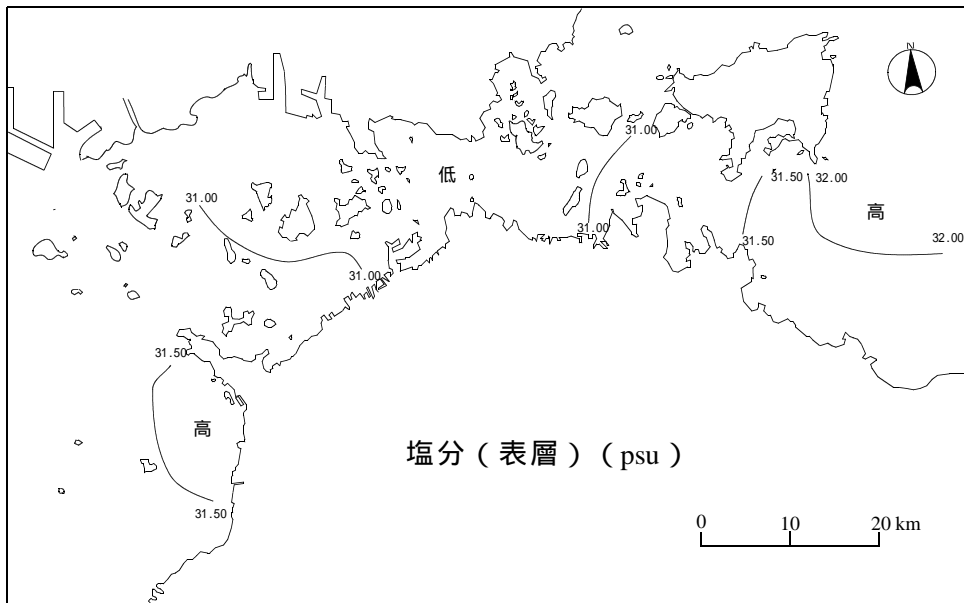
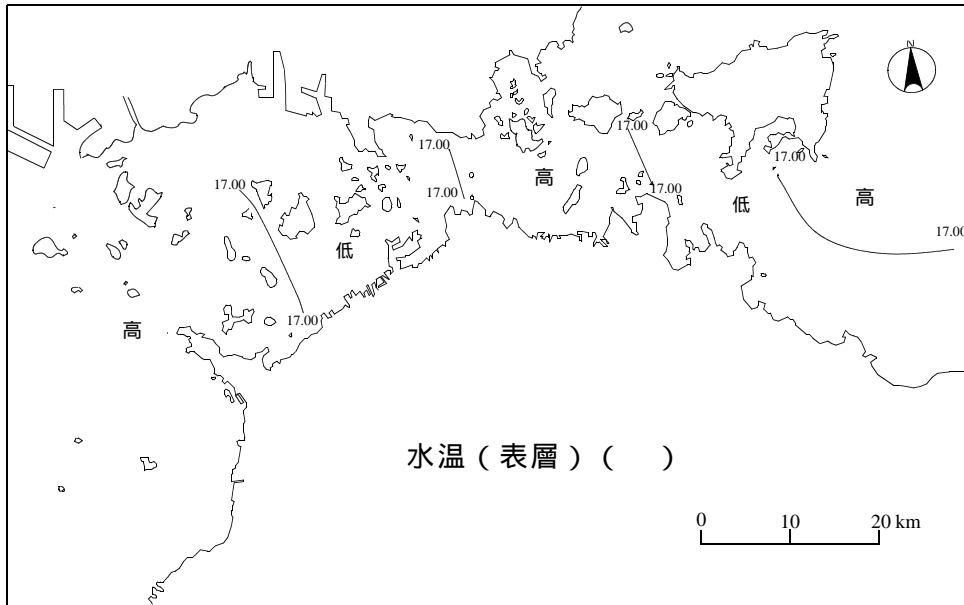
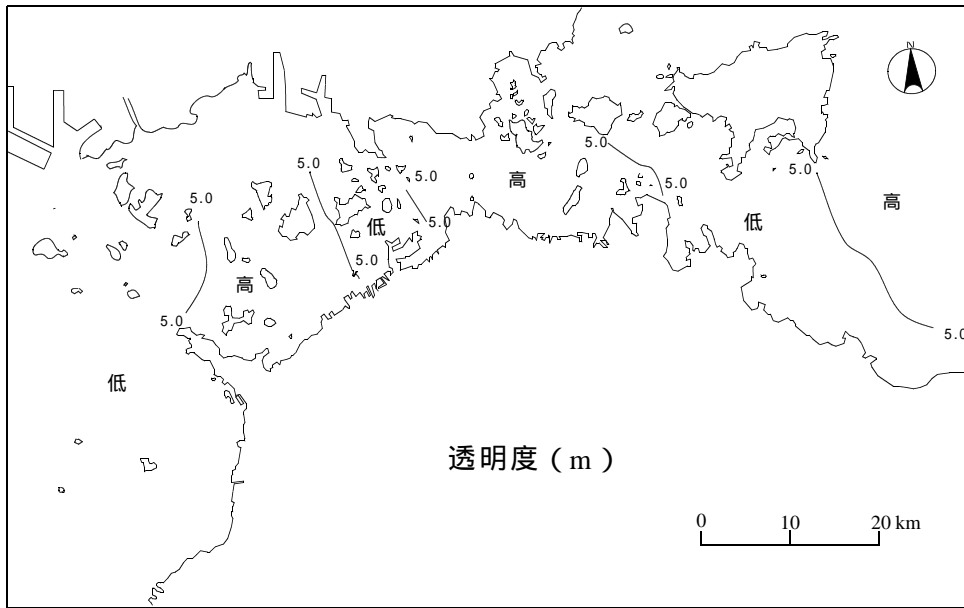
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定量観測 (水温)

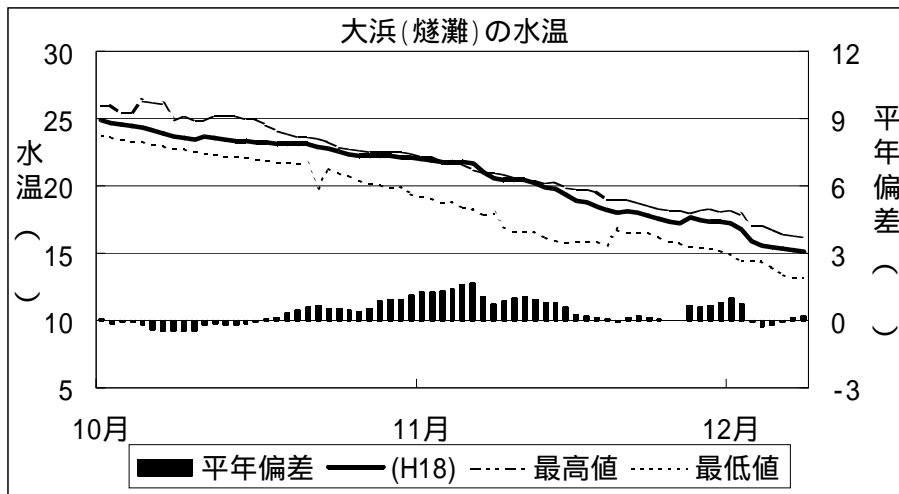
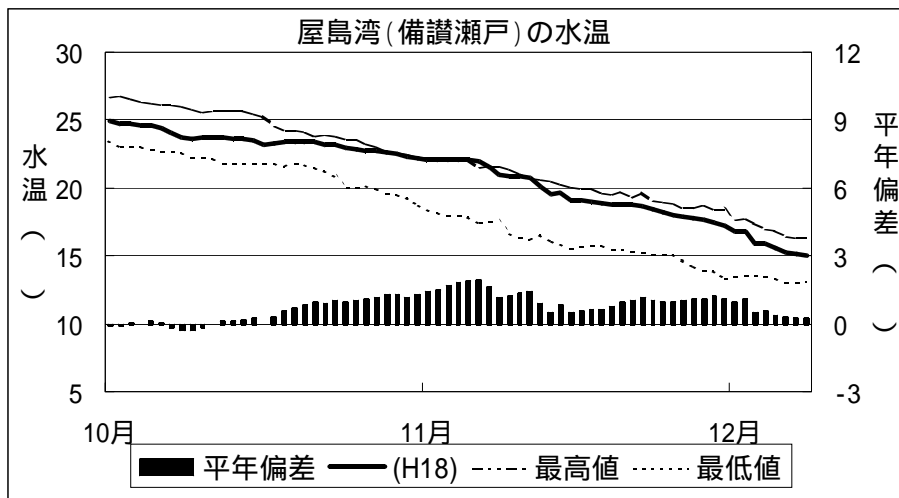
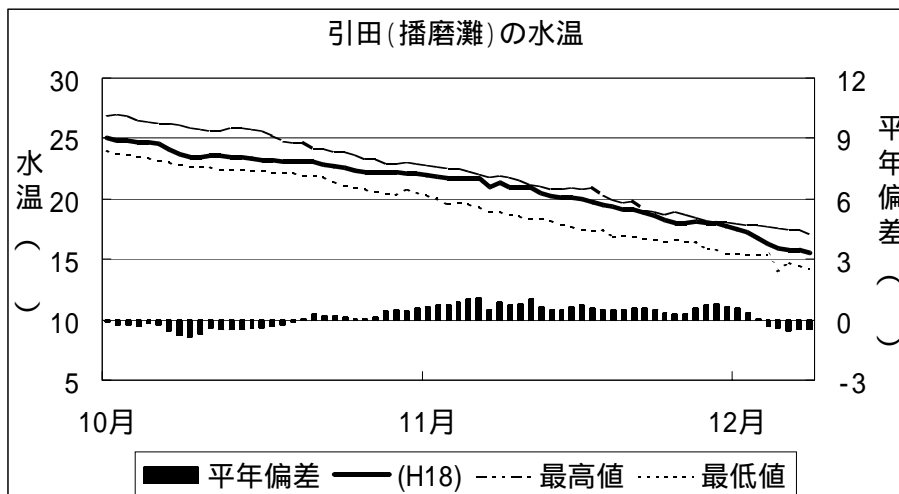
播磨灘 (引田): 10月下旬以降平年値を上回る日が続いたが、12月4日以降は平年値を下回って推移している。

備讃瀬戸 (屋島): 10月中旬以降平年値を上回る日が続き、12月に入っても若干平年値を上回って推移している。

燧灘 (大浜): 10月中旬以降平年値を上回る日が続いたが、11月16~26日及び12月3日以降はほぼ平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元 (1989) ~ 平成17 (2005) 年

屋島: 昭和50 (1975) ~ 平成17 (2005) 年



4) 赤潮

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：11月中旬、南東部で *Mesodinium rubrum* の赤潮の発生があった。

5) 卵稚仔

調査日：平成18年12月5日（播磨灘） 1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.63	0.00
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.33	0.13
燧灘平均	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.57	0.00
総平均	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.30	0.07

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.0%	-	-	-
備讃瀬戸平均	0.0%	-	0.0%	0.0%
燧灘平均	1400.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総平均	37.5%	-	0.0%	0.0%

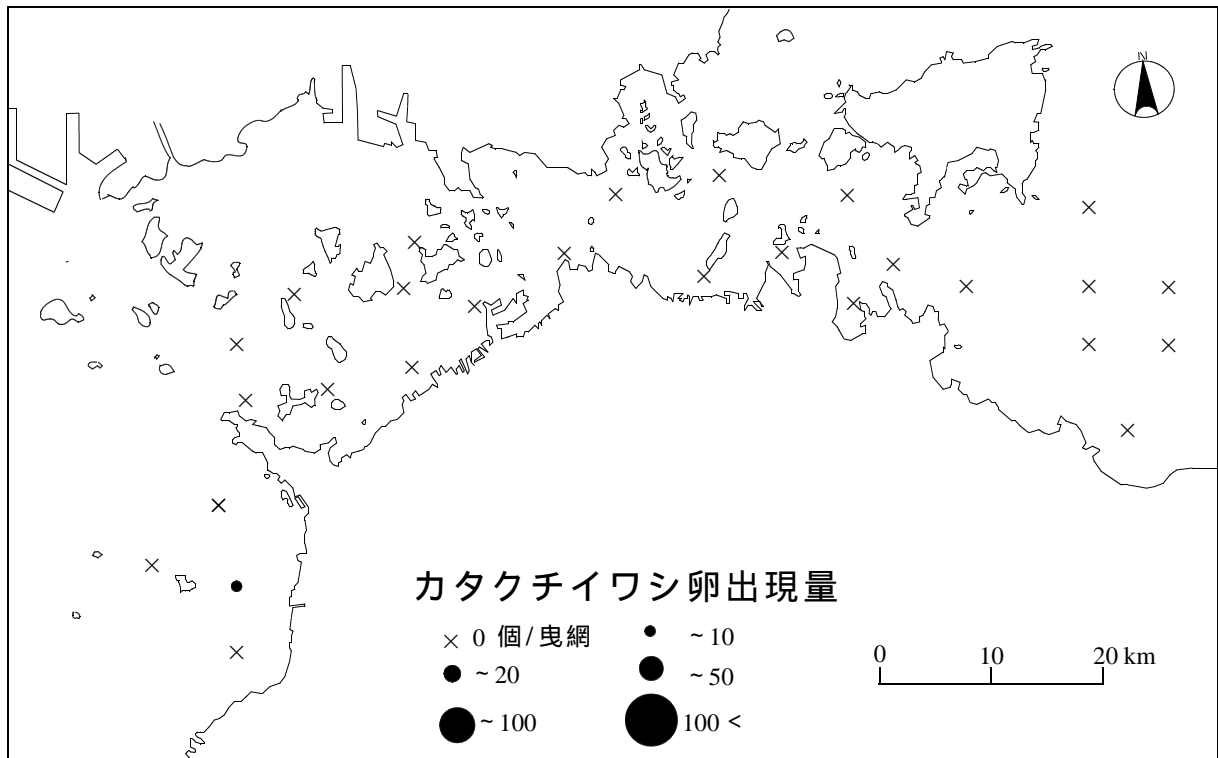
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

11月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主にスズキ、マアナゴ、小エビ類、コウイカ類が漁獲されている。桁網では主にスズキ、マダイ、タチウオ、カワハギが漁獲されているが、低調である。船びき網のシラス漁は、11月下旬で漁期を終了したが、漁獲量は過去20年間で最も少なかった平成16年に次ぐ低調な年であった。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダイ、マアナゴ、イイダコ、マダコ、コウイカ類、小エビ類が漁獲されている。中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は、12月1日から操業が開始され、漁獲量は前年と比較してやや少ない80～100 Kg/隻・日で、大きさも小さい。
燧 灘	底びき網では、主にメイタガレイ、ウシノシタ類、ガザミ、コウイカ類、小エビ類が漁獲されている。桁網ではタチウオ、マダイが漁獲されている。サワラ流し刺網の漁期(10, 11月)中のサワラの漁獲量は約12トンで前年の約1.5倍と好漁であった。